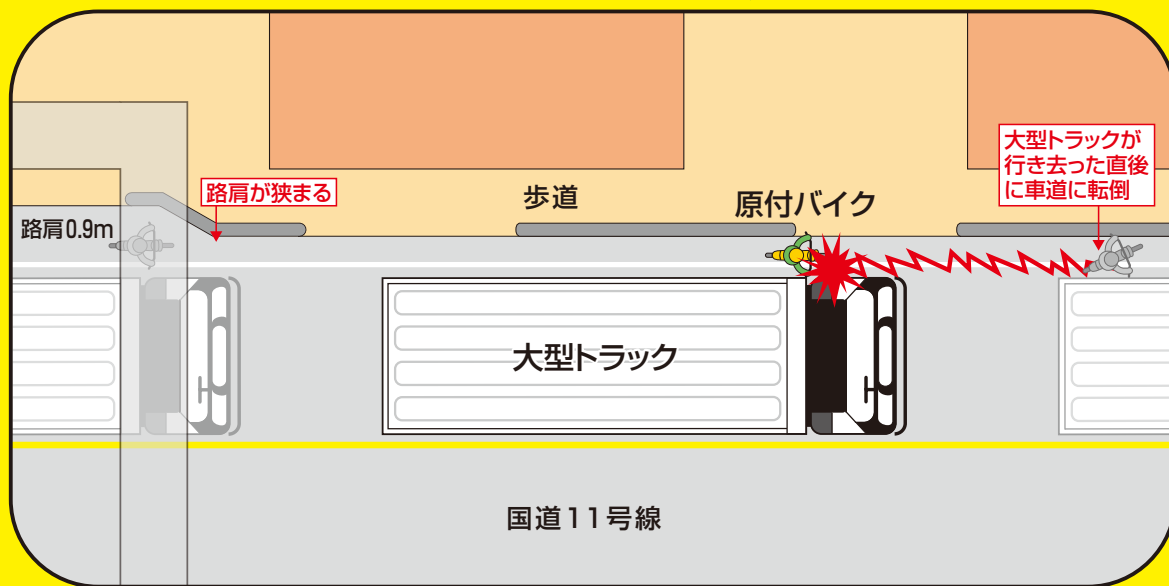


大型トラックと原付バイクの接触

～同一方向へ並走中に、左後方から衝撃音～



事故事例ニュース

第276号

四国交通共済協同組合
安全対策部
坂出市番の州公園6番6号
(安全対策部直通)
0877-85-7992
電話0877-44-4416代

どのような場所か…

直線の片側一車線の一般国道。
途中から路肩が狭まっている。

どのような事故か…

直進していた大型トラックと同一方向に並走していた原付バイクが接触。

大型トラックのデジタコ記録より、速度は60km/hであるとみられる事から、並走の原付バイクも同程度と推測される。

原付バイクは接触後、右ミラーが大型トラックの側面にひっかかり、引きずられた後に転倒した。

原因は……

大型トラック：左後方及び左側方の確認不足。

原付バイク：速度の出しすぎと、広く幅のない路肩を大型トラックと並走した事。

事故時、路肩部分が凸凹で原付バイクがふらついた可能性もある。

この事故を防ぐためには…

路肩が狭くなる場所では、並走状態の両者の距離が接近する。

大型トラック

自車の側面・後方を確認し、並走二輪車がない事を確認する。また、ミラーに映らない死角に相手がいる事も考え、確認は早めに、何度も行う。(前方不注視とならない様に)

原付バイク(自動二輪車も含む)

大型トラックに限らず、車両との並走は危険。

相手車両の死角に入っている場合がある事も理解し、十分に距離を取る。

道路面の状況が凸凹していたり、雨でぬれていたりした場合、ふらついたり滑ったりするので注意する。

速度の出しすぎは厳禁。

《事故防止上の注意点》

並走はしない、追い抜き等で並走状態となる場合は距離をとる!

- 路肩が狭くなる事や、車線減少を早めに察知し、注意する。
- 並走状態になった場合は、距離をとり原付バイク(自動二輪車も含む)がふらついていても対応がとれる様に。
- 左側の並走だけでなく、右側の並走にも注意を払う。

十分に確認してもそこ死角